

# 二〇二〇年度 入学試験問題

## 国 語

### 第一回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから七ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

僕の親世代の人たちの感覚では、社会というものは、みんなの労働があつて初めて成り立つもの、一人ひとりが出しゃかりと参加し、支え合うことで成立するものだ、ということになります。生活に必要なすべてのものは、食べるものにしても、着るものにしても、仲間の誰かが作ってくれたものであり、さまざまな人の手を経て自分のところにきたものばかりです。いくらお金があつても、作る人がいなければ、A 作ったものを運び、売

る人がいなければ、わたしたちは何ひとつ手に入れることができません。B 労働の現場で、自分の役割をそれぞれがきちんと果たすことで社会は成り立ち、一人ひとりの生活も豊かになっていくのです。労働の価値は、対価として得られる収入だけではなく、労働そのものの中にもある。それは、言われてみれば当たり前のことなのですが、ついつい忘れがちになります。

高校生だった僕たちは、「働くことに誇りと喜びを持ち、働く人に対しては感謝の気持ちを持ちなさい」と親の世代からしつこいくらい言い聞かされました。C お茶碗によそったお米を一粒でも残そうものなら、「お百姓さんの毎日の苦勞を考えなさい」と叱られました。それくらい「個人の生活」と「社会」の関係が、「労働」というものを通じてしっかりと結びついています。

D 今はどうでしょう。「労働は、働く対価として収入を得るという個人的行為だ」「基本的に働く働かないは自己責任だ」などというのが、すっかり社会通念になってしまった感があります。でも、実際はそうではありません。こんなに国民の生活格差が開いてしまっている現実が、すべて自己責任のほうではありません。

実際、自分の家庭が経済的に恵まれていなかったり、就職を希望しても内定がとれずフリーターしか選択肢がないなどという状況になったとき、すべて家族や自分自身が悪いと考えてしまう生徒がたくさんいます。でも、当事者だけが悪いなどということは絶対にありません。「労働が社会に対する義務」なのであれば、「個人個人に合った仕事を用意するのは社会の側の責任」なのです。こんなに労働環境が悪い状況が続くと（特に、若者たちの就職難がひどいと）、誰かが「社会の側の責任」をうまく隠そうとして、「労働は個人的行為」だなどと喧伝しているのではないかと疑りたくなるくら

いのです。<sup>(2)</sup> ファーストフードで接客のアルバイトをしている生徒が、ここまでの話を聞いて、

「センセイ、わたしは単なるバイトやけど、お客さまのため」に気を遣つてるよ。それで気持ちの良い時間を過ごしてくれたら、わたしがつていられることも「社会のため」になつてることかな？ あつ、でもバイト代は、もちろん自分のお小遣なんだけどね」

という発言をしてくれました。それに続くように他の生徒からも意見が出ます。

「おれは、スーパーで商品出しのバイトやつてんねんけど、おれの場合、自分のためっていうか、だいたい親父がリストラされたから、まあ家族のためっていうか……」<sup>(3)</sup> 社会のためって感じじゃないなあ」

実際、社会に出て働き始めても、労働は、今日の生活を成り立たせるためであつたり、欲望を満足させるためであつたりと、働くこと自体が社会全体に対する貢献の一部であるという認識にはなかなかありません。あくまでも、利益を生み出すための手段ですから、結局は自分のためということになつてしまいがちです。

「社会」の規模が個人の頭では想像できないくらい大きくなったのと同時に、労働現場や働き方の形態が細分化されたために、自分のしている仕事や社会でどういう役割を果たしているかが見えにくくなつていことも原因なのでしょう。とはいえ、働いている人たちが納める税金や医療保険費、年金などが、この社会のシステムを支える、ザイゲンになつていことことも含め、労働が社会を支えているという現実、個々の労働がなければ社会は成り立たないという現実を具体的に想像してもらつていこと、働くことの意味を生徒に理解してもらつていします。また、実際に働き始めたとき、自分のしている仕事の「社会的役割」を意識しながら働けるなら、それが「生きがい」につながるかどうかは別として、少なくとも「やりがい」はもたらしてくれるはずだ。

生物や社会科の授業で、生徒たちは「人間は集団生活を営む動物である」と習います。動物の世界で言うなら「群れ」を作つて生活するということなんです。群れを作る動物と言え、サルや象、イルカなどいろいろな動物が浮かびます。彼らは群れをなしながら、協力し合つて餌を見つけ、外敵から身を守り、ねぐらを確保しています。個々の役割が決まつてい群れも

あるようです。もし、群れの中に、一匹でも群れ全体の利益を無視し、自分だけの利益を追求するようなのがいたらどうなるでしょうか？ もはや群れは成り立ちません。それどころか、彼らは群れで生活するからこそ生き延びてこられた動物たちです。この先、「絶滅」ということも十分にあり得ることでしょう。

人間の生活も同様です。それはほかの動物以上です。役割を分担し、お互いができないことを、オギナイ合うことでいまの生活が成り立っています。昔ながらの言い方をすれば、「お互いさま」ということになります。労働と社会、そして人のありようを考えると、この「お互いさま」の感覚を持つことが、これからはますます重要になってくると、僕は思っています。

現代社会で起こっている問題の中にも、「お互いさま」という気持ちがあれば解決に向かうものがたくさんあります。戦争などはその最たるものです。経済面に限定しても、多くの企業や個人が、「自分だけ」とか「一人勝ち」という考え方で利益を追求する姿が目につきます。

経済がグローバル化し、世界規模でものごとを考えなければならなくなってきたいま、「自分だけ得をしよう」という発想は古臭い考え方と断言していいでしょう。経済は循環してこそ発展します。限られた資源を有効に活用し、豊かな生活を維持してゆくには、地球に住む一人ひとりの生活にゆとりがなければ不可能なのです。貧しい国、余裕のない国が増えれば増えるほど、環境に配慮した生活をしたくてもできない人々が増えてゆきます。われわれは、もはや地球族という群れの一員のだと、ジカクしなければなりません。少数のわがままな行動が、群れを絶滅へと追いやるかもしれない、そんな状況にまで来ているのではないのでしょうか。

ちよつと話が大きくなりました。もう少し、卑近な話に戻りましょう。「お互いさま」という言葉は、別の見方をすれば、「自立」を意味する言葉になります。「お互いさま」というのは、自分でやれることは自分でやり、できない部分は協力して助け合おうという姿勢で人と付き合う態度のことです。これはまさに「自立して生きる」とこととまったく同じです。

この「お互いさま」の視点で現代社会の「労働」問題を見直してみます。教科書的に言うと、「労働」は有償の「職業労働」と無償の「家事労働」に分類されます。そこに別項目として「ボランティア労働」が付け加えられることもあります。でも、「群れで生活しているわれわれを支えるために営

まれる行為」＝「労働」と考えれば、職業労働にしろ家事労働にしろボランティアにしろ、どれも大切な労働であって、そこにはなんの優劣もないことがわかります。「みんなで社会を支え合っている」現実があるだけです。むしろこれから問題になってくるのは、働く意欲も、また社会へ貢献したい気持ちもあるのに、それを活用する場を、経済情勢によって社会の側で用意できないことでしょう。群れが、群れとしての能力を最大限に生かすためには、社会を構成するメンバー一人ひとりが、持てる力を最大限に発揮できる状況や場があることが大切なのです。

労働を通じて、社会にしっかりと参加・貢献できているという感覚が持てれば、群れを作る動物であるわれわれは安心して生きていけます。社会の平和や安定にもずいぶんプラスとなります。現実社会を見ると「孤立感」＝「群れからはみ出た感」がもたなくなってきているのではないかと思える。ハンザイが増えてきているように思いませんか？

つまり、「お互いさま」という関係が成り立つのは、各自が「群れに参加している」「参加できている」ときであり、「自立」もまた社会参加という文脈の中でとらえる必要があるということなのです。現代社会では、「労働」を取り巻く問題がサンセキしていますが、その多くは「労働の孤立化」や「労働は個人的な営為だ」という現代的な感覚から生じているような気がしてなりません。かといって簡単な解決方法がすぐに見つかるとも思えません。僕たち一人ひとりが働くということの意味をもう一度とらえなおすことで、周りの人との関係性を少しずつでも「お互いさま」感覚に近づけてゆくことで、時間はかかっても少しずつ働きやすい労働環境、住みやすい生活環境に変えていけると信じています。

世の中を見渡せば、儲けることより人との関係性を豊かにすることを優先して、物を作ったり、商売をしたりしている人たちも、若い人を中心に少しずつ増えてきているようにも思えます。僕は自分の生徒たちの中から、一人でも多く「お互いさま」感覚を持って労働市場に出てゆく人が生まれて欲しいと期待しています。

(南野忠晴『正しいパンツのたたみ方―新しい家庭科勉強法』)

問一 ― (1) 「個人の生活」と『社会』の関係が、『労働』というものを通じてしっかり結びついていました。」とありますが、これはどういうことですか。四十五字以内で答えなさい。(句読点を含みます。)

## 問二

——(2)「ファーストフードで接客のアルバイトをしている生徒」の労働に対する気持ちの説明としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒は、アルバイトで接客の楽しさを感じるようになっており、単なる収入のための労働ではないと感じている。

イ 生徒は、社会を意識してアルバイトをしているわけではないが、自分の収入が社会貢献につながると感じている。

ウ 生徒は、社会のためになるように客へサービスすることを心掛けており、自分でもそれは成功していると感じている。

エ 生徒は、自分のおこづかいのためにアルバイトをしているが、客への配慮を通じて収入以外の意義も気づき始めている。

## 問三

——(3)「社会のためって感じじゃない」とありますが、現在、人々がこのように感じるのなぜですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

## 問四

——(4)「ちょっと話が大きくなりすぎました。」とありますが、これはどのような点をさしていますか。解答らんに二行以内で答えなさい。

## 問五

——(5)「自立」もまた社会参加という文脈の中でとらえる必要がある」とありますが、この「自立」とはどのようなことを説明した箇所を五十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。(読点やカッコなどがあれば字数に入ります。)

## 問六

【A】 【D】に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア また イ ところが ウ たとえば エ つまり

## 問七

——(ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

## 問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア かつては、ごはんを食べるときにお百姓さんに感謝するように、あらゆる労働に対して感謝の気持ちを持つのが当然だったが、現在は、労働は個人的な行為であり義務であるとされているので感謝は不要だと言われている。

イ いままでは、労働は収入を得るためだけの個人的な行為だと思われてきたが、最近では若い人たちほど、労働による収入や社会的な地位にはこだわらず、人間関係の充実や環境の改善を重視するようになってきている。

ウ 現在は、家庭が経済的に恵まれていなかったり就職がうまくいかなかったりすると、すべて自分や家庭の責任だと思ってしまう人が多く、当事者だけが悪いわけではなく、社会の側にも個人に労働を留意する責任がある。

エ 労働には、有償の職業労働、無償の家事労働、そしてボランティア労働の三つがあるが、労働と個人、社会との関係でいえば、「お互いさま」という姿勢による社会参加という点で、ボランティア労働がもっとさかんになるべきだ。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「あかり」

そこでまた、名前を呼ばれた。

えっ、この声……。

あかりは、ふたたび顔をあげた。

そして、待合室の入り口に立っている人たちを見て、<sup>(1)</sup>頭がクラツとなるほど驚いた。

待合室の入り口には、由香と桃子と黒沢先生が立っていた。

きいてない。

おばさんから、黒沢先生があとでくるとはきいていたけど、由香や桃子

までくるなんてきいてない。

なんでいるの？

なんできたの？

今、一番会いたくないふたりなのに。こんなときだから会いたくないふたりなのに……。

——由香、桃子、どうしようー。

——大丈夫。あかり、しっかりして！ 私たちがついてるよ。

——でも不安だよー。

——今夜、うちに泊まれば？ うちでおいしいもの食べて、いっしょに寝よう？

——じゃあ、私もいっしょに泊まるー。あかりを真ん中にして、みんな

で寝よー。

——そうだね。これから毎日いっしょにお見舞いにこようね。私、バイオリンのレッスンなんてどうでもいいし。

——私も、空手なんてどうでもいい。それより、あかりのほうが大事だもん。

——みんな、ありがとー。

本当なら、こんなふうに、甘えて、はげましてもらって、助けてもらう。そんな関係が

だけど、ふたりの前でそんな弱い自分を見せるわけにいかない。

悪友に対して、それだけはぜったいにできないし、やりたくない。

あかりは、身体にグツと力をこめて立ちあがると、三人のもとに歩み寄っ

た。

「長谷川さん、大丈夫？」

「はい、大丈夫です」

あかりは黒沢先生の言葉にうなずくと、今度はふたりを見てにっこり笑ってみせた。

「ふたりとも、わざわざきてもらっちゃって、ごめんね」

そして、余裕って感じになるよう、精一杯明るい調子でつづけた。

「なんか、でも、たいしたことないんだってー」

「そうなんだ。じゃあ、安心だね」

心配そうな顔であかりを見ていた由香が、ホツとしたように笑顔をつくる。

だけど、桃子はなにもいわなかった。チラッと見ると、<sup>(4)</sup>あかりから目をそらして気まずそうな顔をしているばかりだ。

「長谷川さん！」

そこで突然、黒沢先生が妙に元気のいい声をあげた。

「チャダンス、栗田さんもやるって。だから、ちゃんと三人で思い出づくりできるようになったのよ！」

桃子がチャダンスをやる？

なんで今、チャダンスがでてくるの？

急にやる気になったって、なんで？

「へえ……」

わけがわからないから、気のぬけたような返事しかできない。

本当なら、「やったあ！ みんなで頑張りうね！」と喜んだほうがいいのだろう。そうすれば、全然へこたれていないっていうアピールになる。

さらに黒沢先生が、うれしそうにつづける。

「お父さんも、長谷川さんが踊るのすごく楽しみにしてるっておっしゃってたし、みんなで頑張りうね！」

楽しみにしてる……？

お父さんが……？

ああ……。

「なんだ、そういうことか……」

あかりは、そこでようやくわかった。

つまり、黒沢先生は桃子に、あかりのお父さんがチャダンスを楽しみに

しているから、いっしょにやってあげてほしいってお願いしたのだ。  
「うちのお父さんが、病気だから？ それで桃子、チャダンスやってくれるの？」

あかりはすごくイヤな気持ちだった。

「私、そんなことしてもらったって、うれしくないから」

自分がひどくみじめで、かわいそうで、悔しい。

お母さんがいないうえに、お父さんまで病気で、桃子にみじめだと思われるなんて、たえられない。

「うれしくないから！」

すると A、桃子が口を開いた。

「じゃあ、やめよう」

そして、<sup>(4)</sup> はじめてあかりの顔を見てつづけた。

「朝、私と由香が先生に呼ばれて、あかりのお父さんのときかされたんだ。だからいっしょにお見舞いにいこう、あかりのお父さんが楽しみにしているから、いっしょにチャダンスやってあげてほしいって、頼まれたんだよ」

<sup>(5)</sup> 桃子の言葉は、まるで国語の時間に文章を読まされているみたいに、なんの気持ちももっていないかった。無理やりだれかにいわされてるみたいで、あかりは、へたくそなお芝居を見ているような気持ちになった。

「でもあかりは、そんな理由で私にチャダンスやってほしくないでしょう？」

「うん。やってほしくない」

あかりは、そんな桃子を見て、 B みじめな気持ちになった。

「それに私、お父さんの看病を<sup>かんびよう</sup>しなきゃいけないから、チャダンスどころじゃないし」

桃子も由香も、きたくてきたわけじゃない。先生にいわれたから、きただけ。

「あつ、そうだ」

そう思ったら、あかりは、もう、この場にいるのがたえられなかった。

「私、お父さんの新しい病室、掃除<sup>そうじ</sup>しなきゃならないから、もういくね」

これ以上みじめな自分を、ふたりに見られるのは、イヤ。

「ふたりとも、今日は、わざわざありがとう。黒沢先生も、ありがとうございました」

95

90

85

80

75

70

65

あかりは、そうして小さく頭をさげると、逃げるように待合室をでた。  
「長谷川さん！」

先生の呼びとめる声が出たけど、あかりはそのまま廊下<sup>ろうか</sup>にでて、お父さんの新しい病室に向かった。いそがしそうに見えるよう、大股<sup>おおもた</sup>で C と歩きつづけた。

お父さんの新しい病室にいくと、あかりはベッドのそばにあるイスに腰かけた。

ベッドのまわりは、さつきおばさんが荷物を運んだだけなので、きれいだっただ。

D

急に力がぬけて、さつきの自分の態度や、はきだした言葉を思い出す。

ずいぶんおかしな態度をとったかもしれない。

だけど、そんなの、どうでもよかった。なにもかも、どうでもいっていい気分だった。

110

大きな窓<sup>まど</sup>の向こう側に、空がひろがっている。うすい青空の遠く向こうに黒っぽい雲が見えている。あの雲が近づいてきたら、きつと雨になる。そう予感させるようなあやしい空。あかりはそんな空にむかって、お願いしてみた。

115

お母さんさあ、見てるだけじゃなくて、助けてよ。お父さんが病気になるまえの世界にもどしてよ。神様みたいに奇跡<sup>きせき</sup>を起こしてよ。そこからは、お父さんの病気を治すのくらい簡単<sup>かんたん</sup>なはずでしょ？

そんなお願いを試してみたところで、なにも変わらないのはわかっている。もう、今までとはちがう。

お母さんがけして生き返らないのと同じで、お父さんが病気になるまえには、もどれない。

あかりは、そんな覚悟<sup>かくご</sup>をしながら、<sup>(6)</sup> そのあやしい空をぼんやりと見つめつづけた。

(草野たき『グッドジョブガールズ』)

120

## 問一

——(1)「見て」とありますが、「見る」を使った次の一～五の慣用句の意味を、後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 一 白い目で見る
- 二 長い目で見る
- 三 ばかを見る
- 四 日の目を見る
- 五 見る影もない

「意味」

ア 冷たい目つきで人を見る。

イ 将来のことまでを考えに入れる。

ウ 昔のりっぱな様子がどこにもない。

エ 損をする。

オ 今まで知られていなかったものが、世の中に認められるようになる。

## 問二

——(2)「頭がクラッとなるほど驚いた。」とありますが、なぜですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

## 問三

〔3〕に入れるのにふさわしい言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 最悪
- イ 理想
- ウ 現状
- エ 確実

## 問四

——(4)「あかりから目をそらして気まずそうな顔をしているばかりだ。」「はじめてあかりの顔を見てつづけた。」とありますが、それまであかりから目をそらしていた桃子があかりの顔を見ることになったのはなぜですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

## 問五

——(5)「桃子の言葉は、まるで国語の時間に文章を読まされているみたいに、なんの気持ちももっていないかった。」とありますが、なぜですか。その理由としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 桃子は、先生の頼みを聞かなければならなかったことを不本意に感じていますが、その感情を先生の前では隠しておかないといけなから。

イ 桃子は、先生に頼まれてチアダンスを引き受けたという芝居を打つことで、あかりの同情を得ようとしているから。

ウ 桃子は、先生に無理やり事情を説明するように頼まれていて、せっかく口裏を合わせたことをあかりに聞かせることが不本意だから。

エ 桃子は、先生とのやり取りがあったことをあかりに伝えようと事前にせりふを用意しており、そのせりふを読み上げながら話していたから。

## 問六

——(6)「そのあやしい空をぼんやりと見つめつづけた。」とありますが、この描写が示しているのは、あかりのどのような気持ちですか。二十字以内で答えなさい。(句読点を含みます。)

## 問七

〔A〕〔D〕に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- ア どしどし
- イ もちろん
- ウ ますます
- エ ようやく

## 問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 黒沢先生は、病院に見舞いに来た由香と桃子に対して、あかりが自分から話しかけようとしなかったのを見かねて、あかりに父親のために由香と桃子といっしょにチアダンスをしようと提案した。

イ 黒沢先生は、あかりと桃子、由香の三人でチアダンスができるようになったと言ったが、本当は、黒沢先生が、あかりの父親を元気づけようと、三人が仲がよいことを見せるように桃子や由香に頼んだ。

ウ 黒沢先生は、あかりの病気の父親がチアダンスを楽しみにしていると思うと、チアダンスを実現させようとしているが、あかりは、そのような理由でチアダンスをしても、父親は少しもうれしく感じないだろうと思っていた。

エ 黒沢先生は、あかりに対して、桃子がチアダンスをやる気になったと告げたが、実際は、あかりの病気の父親がチアダンスを楽しんでいることから、黒沢先生が気づかって、桃子や由香にチアダンスをするように頼んだ。









